

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学科の名称	専任教員数						非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考	
	常勤教員		基準数		うち作業療法士数					
作業療法学科	6	人	6	人	6	人	35	人	14.3	人
計	6	人	6	人	6	人	35	人		

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

新教育課程表 (2024年度より)

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コ マ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基 礎 分 野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	15	城下 未来	兼任
		カウンセリング論	8		
		日本語表現法	8	古市 寛	兼任
		文化人類学	8	畠山 均	兼任
		社会福祉概論	8	柏木 伸子	兼任
		生物学	8	久保 惣二郎	兼任
		物理学	8	福田 健一	専任
		統計学	8	中道 隆広	兼任
		保健体育1	8	茂見 祥平	兼任
		保健体育2	8		
		外国語	8	B. J. Joseph	兼任
		ホスピタリティ論1	8	田中 美吉子	兼任

		ホスピタリティ-論2	8		
		ホスピタリティ-論3	8		
専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学1 (骨・関節・靭帯・筋)	40	桑原 由喜 他	専任
		解剖学2 (脈管・神経)	23	井戸 佳子 他	専任
		解剖学3 (内臓・感覚器)	23	内田 智子	専任
		解剖学実習	23		
		生理学	30	村田 潤	兼任
		生理学実習	23		
		人間発達学	15	住吉 秀人 他	兼任
		運動学	30	桑原 由喜 他	専任
		運動学実習	23	内田 智子 他	専任
		臨床運動学	15		
		疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促進	医学概論	8	松屋 福蔵
	病理学概論		8	熊谷 謙治	兼任
	整形外科1		15	熊谷 謙治	兼任
	整形外科2		8		
	神経内科学1		15	河合 正行	兼任
	神経内科学2		8		
	内科学1		15	野中 和樹 他	兼任
	内科学2		8		
	精神医学 1		15	鎌田 秀一 他	兼任
	精神医学 2		8		
小児科学	8		佐藤 美悠 他	兼任	
臨床心理学	8				
救急救命医学	8		中道 親昭 他	兼任	
健康増進論	15				
画像診断学 1 (中枢)	8				
画像診断学2 (骨・関節)	8				
リハビリテーションの 理念	リハビリテーション概論1	15	小谷 泉 他	専任	
	リハビリテーション概論2	8			
	社会保障制度論	8	柿田 京子 他	兼任	
専 門 分 野	基礎作業療法学	作業療法学概論	15	中村 義博 他	専任
		キャリア教育学	8	中村 義博	専任
		基礎作業学概論	15	桑原 由喜	専任
		基礎作業学技法・分析1	30	中村 義博 他	専任
		基礎作業学技法・分析2	15		
		作業療法研究	8		
	作業療法管理学	医療倫理学	8	三原 和行 他	兼任
		職場管理学	8		
	作業療法評価学	作業療法評価学 1	30	眞浦 健人 他	専任
		作業療法評価学 2	30		
		作業療法評価学 3	23		
	作業療法治療学	治療学1(総論)	8	井戸 佳子 他	専任
		治療学 2	15		
		身体障害治療学1(中枢A)	23		
		身体障害治療学2(中枢B)	8		
		身体障害治療学3(整形)	15		
		身体障害治療学4(内部)	8		
		発達障害治療学	15		
		精神障害治療学	30		
		老年期障害治療学	8		
高次脳機能障害治療学		8			
運動療法		8			
音楽療法		8			
アニマル介在療法		8	藤川 勇	兼任	
デジタル活用支援		9			
日常生活活動学 1		23	中村 義博 他	専任	
日常生活活動学 2		30			
義肢学		8			
装具学		15			
福祉用具機器関連		8	内田 智子 他	専任	
作業療法総合実習 1	15				

		作業療法総合実習 2	15		
		職業関連活動	8		
		作業療法総合セミナー	23		
	地域作業療法学	地域作業療法学概論	15	眞浦 健人 他	専任
		生活環境学	15		
		サービスマナー	8		
		地域リハビリテーション論	15		
	臨床実習	臨床実習 1	40	臨床実習指導者	兼任
		臨床実習 2	135		
		臨床実習 3	405		

旧教育課程表 (2024年度以前)

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コ マ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基 礎 分 野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	15		
		カウンセリング論	8	城下 未来	兼任
		日本語表現法	8		
		文化人類学	8		
		社会福祉概論	8		
		生物学	8		
		物理学	8		
		統計学	8		
		保健体育 1	8		
		保健体育 2	8	茂見 祥平	兼任
		外国語1	8		
		外国語2	8	Briganti James Joseph	兼任
		ホスピタリティ論1	8		
		ホスピタリティ論2	8	田中 美吉子	兼任
ホスピタリティ論3	8	田中 美吉子	兼任		
専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学1 (骨・関節・靭帯・筋)	20		
			20		
		解剖学2 (脈管・神経)	23		
		解剖学3 (内臓・感覚器)	23		
		解剖学実習	23	原 修平 他	兼任
		生理学1 (一般生理)	15		
		生理学2 (神経生理)	15		
		生理学実習	23	介田 圭	兼任
		人間発達学	15		
		運動学	30		
		運動学実習	23		
		臨床運動学	15	園田 正司	兼任
		疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促進	医学概論	8	
	病理学概論		8		
	整形外科学1		15		
	整形外科学2		8	田中 剛	専任
	神経内科学1		15		
	神経内科学2		8	井戸 佳子 他	専任
	内科学1		15		
	内科学2		8	内田 智子 他	専任
	精神医学 1		15		
	精神医学 2		8	中村 義博 他	専任
	小児科学		8		
	臨床心理学		8	城下 未来	兼任
	救急救命医学		8		
	健康増進論		15	井戸 佳子 他	専任
	画像診断学 1 (中枢)	8	平尾 真希	兼任	
画像診断学2 (骨・関節)	8	木村 和也	兼任		
保健医療福祉とリハビ リテーションの理念	リハビリテーション概論1	15			
	リハビリテーション概論2	8	桑原 由喜 他	専任	
	社会保障制度論	8			
基礎作業療法学		作業療法学概論	15		

専 門 分 野		キャリア教育学	8		
		基礎作業学概論	15		
		基礎作業学技法・分析1	30		
		基礎作業学技法・分析2	15	桑原 由喜 他	専任
		作業療法研究	8	桑原 由喜	専任
	作業療法管理学	医療倫理学	8		
		職場管理学	8	末武 達雄	兼任
	作業療法評価学	作業療法評価学 1	30		
		作業療法評価学 2	30	内田 智子 他	専任
		作業療法評価学 3	23	中村 義博 他	専任
	作業療法治療学	治療学1(総論)	8		
		治療学 2	15	中村 義博 他	兼任
		身体障害治療学1(中枢A)	15	眞浦 健人 他	専任
		身体障害治療学2(中枢B)	15	内田 智子 他	専任
		身体障害治療学3(整形)	15	田崎 和幸 他	兼任
		身体障害治療学4(内部)	8	井戸 佳子 他	専任
		発達障害治療学	15	浦川 由紀子 他	兼任
		精神障害治療学	30	中村 義博 他	専任
		老年期障害治療学	8	井戸 佳子	専任
		高次脳機能障害治療学	8	山田 麻和 他	兼任
		運動療法	8	塚本 倫央 他	兼任
		音楽療法	8	栢田 素子	兼任
		アニマル介在療法	8		
		日常生活活動学 1	23		
		日常生活活動学 2	30	田中 剛 他	専任
		義肢学	8	大庭 潤平	兼任
		装具学	15	内田 智子 他	専任
		福祉用具機器関連	6		
		作業療法総合実習 1	15	桑原 由喜 他	専任
		作業療法総合実習 2	15	中村 義博 他	専任
		職業関連活動	8	太田 勝代	兼任
		作業療法総合セミナー	23	内田 智子 他	専任
	地域作業療法学	地域作業療法学概論	15		
		生活環境学	15	桑原 由喜	専任
		サービスラーニング	8	井戸 佳子 他	専任
		地域リハビリテーション論	15	井戸 佳子 他	専任
	臨床実習	臨床実習 1	40		
		臨床実習 2	135	臨床実習指導者	兼任
		臨床実習 3	315	臨床実習指導者	兼任

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4

	る。	7
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入して下さい。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療提供施設その他の見学	1年前後期 2年後期	作業療法概論 職業関連活動	1年前後期 2年後期
通所・訪問リハビリテーションの見学	1年前後期	地域作業療法概論	1年前期
作業療法評価の実践	2年後期	作業療法評価学1～3	1年後期 2年前期
作業療法治療技術の実践	3年前後期	治療学1 身体障害治療学1～4 発達障害治療学 精神障害治療学 老年期障害治療学 高次脳機能障害学 日常生活活動学2	2年前後期

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	学校関係者評価委員会
------------	------------

委員名（委員長）	学校関係者評価委員
組織の開催頻度	1年に3回
組織の取り組み内容	・年度目標に対する評価や助言
	・中間評価に対する評価や助言
	・学院の自己評価調査結果及び改善策についての評価
	・次年度の教育活動その他学校運営結果の改善に対する助言
自己点検・評価結果の公表	HPで公開(http://www.koyogakuen.ed.jp/rehabili/)

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務部
	委員構成等	部長・副部長・各学科教務部員(PT・OT・ST)
	改善の仕組みの実際	教務部会議において定期的にシラバスに必要な追加項目の検討を実施。シラバスの記載内容の吟味を実施。

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

学院として中・長期的な事業計画を踏まえ、自己点検・評価及び第三者評価の結果を単年度計画に盛り込み、学院全体で組織的に取り組んでいる。また、運営会議を実施し、目標達成に向けた課題の具体的な取り組みを示し、職員会議にて教職員に周知し取り組んでいる。
--